

令和7年12月23日
原子力安全対策課
(07-46)
<20時記者発表>

新型転換炉原型炉ふげんのホットカラム室内での 水（トリチウムを含む）の漏えいについて

このことについて、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

廃止措置中の新型転換炉原型炉ふげんにおいて、本日15時18分頃、原子炉補助建屋3階（管理区域）のホットカラム試験装置※1室において、解体ハウス※2を設置し、ホットカラム試験装置の配管を切断したところ、水が約20cm³漏えいした。その後、漏えいは停止した。

漏えいした水にはトリチウムが含まれており、仮設のトリチウムガスマニタによる測定の結果、解体ハウス内のトリチウム濃度は、最大で 1.85×10^0 Bq/cm³まで上昇した。また、この濃度をもとにハウス内の放射能量を評価した結果、約 4.0×10^7 Bqと評価された。

解体作業中は、ハウス内の局所排気を実施していたが、現在は換気を止めるとともに、ハウスに目張りを行い外部への漏えい防止措置を行っている。

なお、当時室内にいた作業員3名はただちに退出し、外部被ばくはなかった。また、トリチウム濃度と作業員の吸気量をもとに内部被ばく評価を行ったところ、内部被ばくはなかった。

排気筒に設置しているトリチウムモニタには有意な変化はなく、本事象による外部への放射能の影響はない。

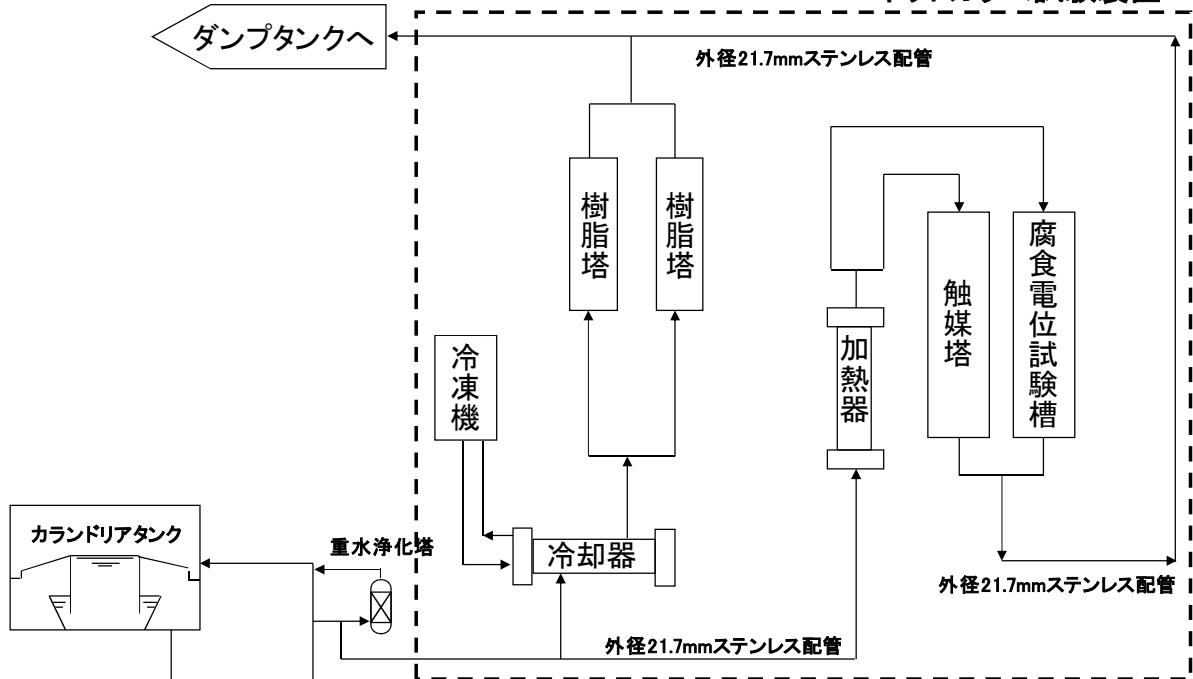
※1 重水を浄化するための樹脂の性能や、重水中での金属の腐食を測定する装置。

平成6年より使用していない。

※2 汚染の拡大防止のために養生を施した区域。

問い合わせ先（担当：宇野、有房）
内線 2352・直通 0776(20)0314

ホットカラム試験装置



ホットカラム試験室

